

学校統廃合に伴う影響について



勝木 幸生 議員

**勝木** 五和中小学校における小中一貫教育（連携）の一年間の進捗具合は。

**教育部長** 小中学校の教育目標・経営の方針は一貫性を持たせ、9年間を見通した学校運営を行う。取組みとして、一貫教育推進委員会・学力充実部会等の組織の設置。小中学校相互の乗り入れ授業の実施。小中合同校内研修の開催等を通して、一体的な指導の充実を図っている。

**勝木** スクールバスの運行と学校跡地の管理のあり方は。

**教育部長** 児童生徒数等の現状と将来予測を踏まえ、保護者・学校側と協議し、児童生徒の安全と効率性を図りながら運行したい。学校の管理等は、地域の皆様の協力を得ながら、拠点施設・利用施設・利用頻度に応じて、清掃・除草など実施回数を設定する。樹木等の剪定・伐採は計画的に行う。

**【生活困窮者自立支援法について】**  
**勝木** 生活困窮者自立支援法に対しての本市の取組み方は。



**市長** 法が制定され1年半、県のモデル事業として、社会福祉協議会と連携し取り組んでいる。本年度から、自立相談支援事業・居住確保給付金と合わせ、就労準備支援・家計相談支援事業を行い、7名の相談員で対応し、民生員・区長・事業所・市役所等、包括的な相談支援体制を構築し、地域ネットワークの強化を図り、支援を行っていききたい。

**【将来の墓守りの考えについて】**

**勝木** 人口減少社会の中で、将来の墓の管理の取組み方は。

**市長** 26年度より、社会福祉協議会で、墓の管理について、調査研究をし、要綱やパンフレットを作成。4つのNPO法人と管理サービスを行う団体等、組織化に取り組み本市以外在住の方々にも周知を行いながら実施して行きたい。

観光振興について



浜崎 昭臣 議員

**浜崎** 南の玄関口「出水駅」での天草の売り方が、案内も含めあまりにもお粗末である。進捗状況、今後の計画をお尋ねする。「銀座熊本館」を天草のさらなる知名度アップに有効活用すべきと考えが如何か。

**観光文化部長** シャトルバス乗り場へ誘導する案内看板を、二ヶ所3月27日設置する。出水駅内での案内誘導についても要望中。「銀座熊本館」は、首都圏での情報発信の拡大や認知度向上のため、さらなる活用に努める。

**市長** 出水駅に関し、利用促進協議会に出席して議員の思い等を伝える。新幹線内での車両アナウンスについても、運動を展開していきたい。



**市長** 下田温泉の地質学的研究については、既に発表されている研究成果をもとに、再調査を含め、大学や研究機関の協力を得ながら、下田温泉の成り立ち、陶石との関係について伝え、崎津集落や周辺の見どころと併せたPRに取り組みたい。

**【天草ジオパークについて】**  
**浜崎** 各地に点在するジオサイトの中に「下田温泉」がある。温泉とジオパークの関連をもっと掘り下げ、調査学術研究する事は、世界一ともいわれる天草陶石との関連解明になり、さらに世界遺産「崎津集落」に隣接していることで相乗効果が大きい。正式調査を強く要望する。

**【漂着物学会・南天草大会について】**

**浜崎** 漂着物学会が昨年沖繩・石垣島で開催された。本年15回大会は徳島に決定、来年16回は北海道予定。17回大会を、天草で開催するお考えはないか。

**市長** 徳島大会へ職員を派遣し、17回大会の誘致を検討したい。

天草市の一体的発展と支所機能充実について



本田 武志 議員

**本田** 上天草市では、「前島総合開発」として、大規模な観光施設整備が進んでいる。また、苓北町においても、イルカウォッチング発着基地の整備が計画されていると聞くが、五和町二江地区に計画されている（仮称）「イルカセンター」の計画は急ぐべきではないか。

**市長** 建設には、地元の皆さんのご理解と協力が重要である。県との協議を進め、準備ができた第、地元と一体となって、計画を進めたい。

**本田** 農業振興において、「飯の食える農家」の育成が重要である。天草の気候風土を生かした柑橘栽培の振興が望まれる。「デコボンハウス」への補助金の拡大を検討すべきでは。

**市長** 従来の補助事業を精査しながら、農協等と連携して、今後の施設園芸の方向性を定めたい。また、地方創生の総合戦略として、国へ提案していきたい。

**本田** 「支所機能の充実」の概要、また、支所で決定できる予算の範



有明町大浦の屋根かけデコボンハウス

囲が、具体的に、本年度とどう変わるのか。  
**市長** 「支所要望対応予算」の新設や「簡易な修繕等」は、支所で所管することとした。支所で執行できる予算が、9支所合計で、平成26年度の2,800万円から、平成27年度は、1億1,600万円へ増額される予定。

牛深における地方創政策について



益田 政昭 議員

**益田** 天草は「風景街道」「ジオパーク」の認定を受け、平成28年には世界遺産登録が期待され、五橋誕生50周年となる。県との協力で「VISTアまくさプロジェクト」により、全国的に天草を発信する。この観光資源を最大限活かすことが天草の創政策となる。天草全体の観光振興策のお考えは。

**市長** 日本は円安による外国人観光客も増えている。道の駅などを整備し、天草全体に回遊性のある受け入れ態勢を作るのが重要だ。

**益田** 世界遺産登録では多くの観光客が期待できるが、天草観光の面白味は周辺部にもある。周辺部の整備の遅れはその効果を継続できない。その一つに交通アクセスの問題がある。牛深く歳の元間のフェリーについて、現状1往復120分、1艘体制で、人や車の移動が数的・時間的に不便だ。県や市の政策として2艘体制にすることはできないのか。（長崎県では既に実施）

**市長** 長崎県の場合、社会資本整備資金を利用し、島鉄フェリーに

10億円を投入。天草市として三和商船さんとは、何度か話してきただ。三和フェリーは天草に入るための重要なルートの一つと考えている。ただ、2艘にすることは現在運航している事業所のことも含めて、いろんな角度からの検討が必要だ。

**益田** 観光客に回遊性を持たせるためには天草周辺部の整備が不可欠だ。4月には移転する漁協水揚げ施設は「港オアシス」にも認定されたエリアにあり、ここに物販・食事・宿泊等の観光拠点の整備を多くの市民は望んでいる。官民協力してこの跡地の再開発は必要だと思いが。

**市長** 漁港などの敷地利用は、水産庁も全国的に多くの漁港で問題を抱えている。開発には利用目的などを含めた法的な問題があり、難しい部分がある。漁協の意向を重視しており今後の検討課題だ。

